

男女共同参画社会に関する アンケート結果

▶ 実施期間 / 令和7年7月23日～令和7年9月19日



宇治田原町
企画財政課

目次

I.回答者の属性について	-1-
II.男女平等に関する意識について	-4-
III.男性・女性の活躍社会について	-7-
IV.結婚や職業など生活全般について	-10-
V.人権について	-20-
VI.男女共同参画のまちづくりについて	-23-

男女共同参画社会に関するアンケート結果の概要

■ アンケートの目的

第2次宇治田原町男女共同参画計画の計画期間（R3-R12）の中間年度において、住民意識の変化とともに、同計画に掲げる取組の進捗状況を把握するため。

■ アンケートの実施期間

令和7年7月23日(水) ～ 令和7年9月19日(金)

■ 回答率

項目	人数	回答率
対象数*	500	
有効回答数	201	40.2%

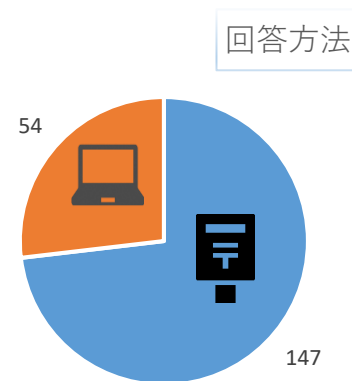
*町内在住の20歳以上から無作為に抽出

【参考】前回(R2)回答率

項目	人数	回答率
対象数*	500	
有効回答数	224	44.8%

■ 回答方法

回答方法	回答	割合
郵送	147	73%
インターネット	54	27%
合計	201	100%

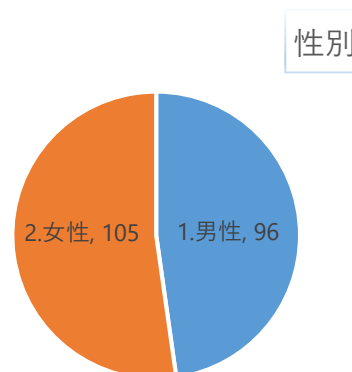


I. 回答者の属性について

Q1 単一回答

あなたの性別は。

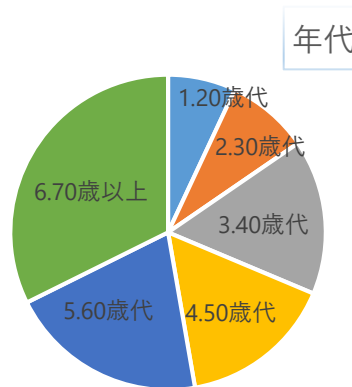
項目	回答	割合
1.男性	96	48%
2.女性	105	52%
3.どちらでもない	0	0%
4.答えたくない	0	0%
合計	201	100%



Q2 単一回答

あなたの年齢は。

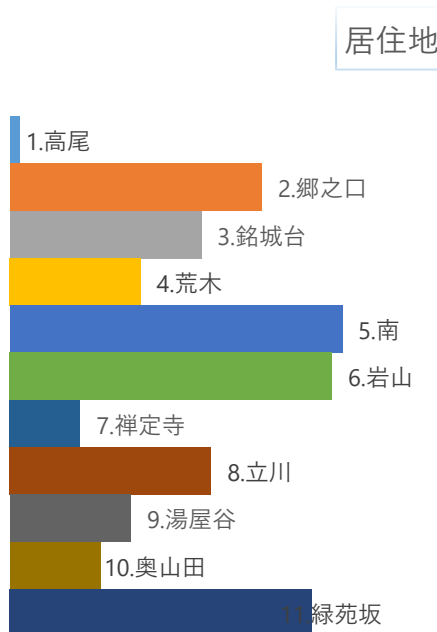
項目	回答	割合
1.20歳代	14	7%
2.30歳代	17	9%
3.40歳代	32	16%
4.50歳代	32	16%
5.60歳代	41	20%
6.70歳以上	65	32%
合計	201	100%



Q3 単一回答

あなたのお住まいはどちらですか。

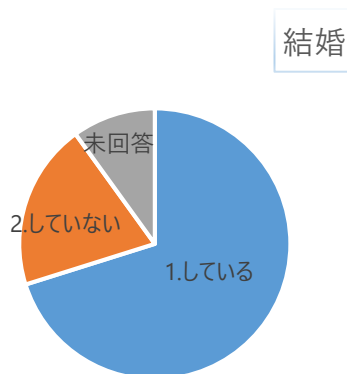
項目	回答	割合
1.高尾	1	1%
2.郷之口	25	12%
3.銘城台	19	9%
4.荒木	13	6%
5.南	33	16%
6.岩山	32	16%
7.禅定寺	7	4%
8.立川	20	10%
9.湯屋谷	12	6%
10.奥山田	9	5%
11.緑苑坂	30	15%
合計	201	100%



Q4 単一回答

あなたは結婚されていますか。

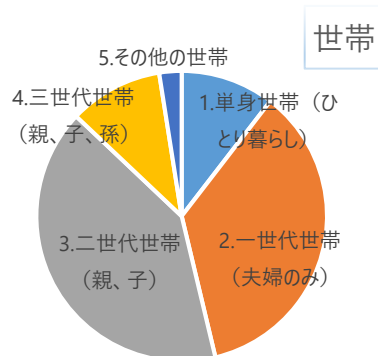
項目	回答	割合
1.している	141	70%
2.していない	40	20%
未回答	20	10%
合計	201	100%



Q5 単一回答

あなたと一緒に暮らしているご家族は。

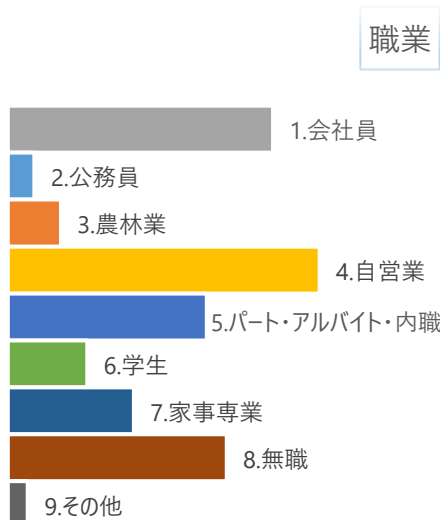
項目	回答	割合
1.単身世帯（ひとり暮らし）	21	10%
2.一世代世帯（夫婦のみ）	72	36%
3.二世帯世帯（親、子）	82	41%
4.三世帯世帯（親、子、孫）	21	10%
5.その他の世帯	5	3%



Q6 単一回答

あなたの職業は。

項目	回答	割合
1.会社員	40	20%
2.公務員	4	2%
3.農林業	8	4%
4.自営業	47	24%
5.パート・アルバイト・内職	30	16%
6.学生	12	6%
7.家事専業	19	10%
8.無職	33	17%
9.その他	3	1%



Q7 単一回答

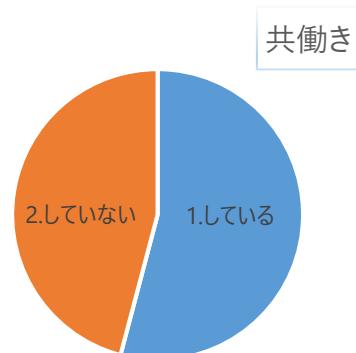
あなたの勤務先は、町内・町外のどちらですか。

項目	回答	割合
1.町内	62	50%
2.町外	63	50%

Q8 単一回答

あなたのご夫婦は共働きをしていますか。

項目	回答	割合
1.している	79	54%
2.していない	67	46%



II.男女平等に関する意識について

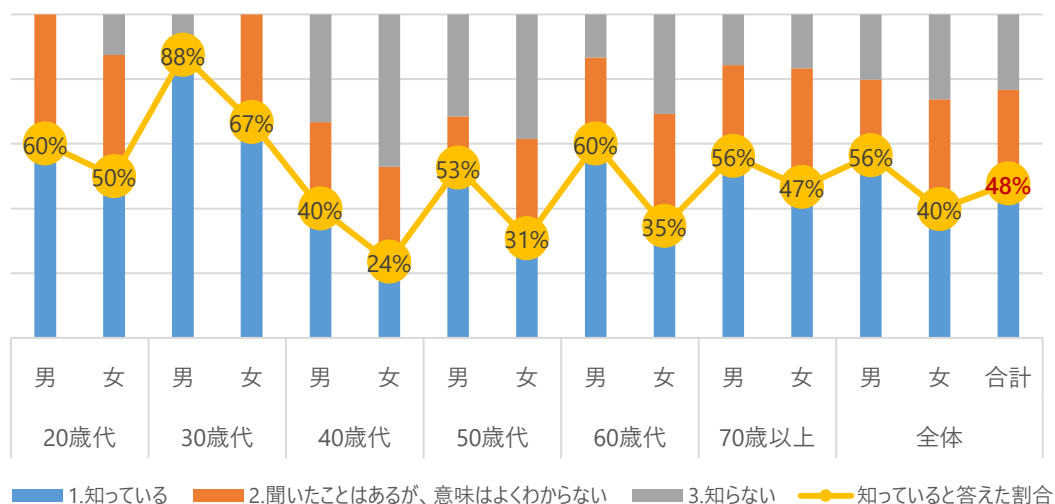
Q9 単一回答 KPI項目

「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。

クロス集計

年代	性別	1.知っている	2.聞いたことはあるが意味はよくわからない	3.知らない	認知割合
20歳代	男	3	2	0	60%
	女	4	3	1	50%
30歳代	男	7	0	1	88%
	女	6	3	0	67%
40歳代	男	6	4	5	40%
	女	4	5	8	24%
50歳代	男	10	3	6	53%
	女	4	4	5	31%
60歳代	男	9	4	2	60%
	女	9	9	8	35%
70歳以上	男	18	9	5	56%
	女	14	11	5	47%
合計	男	53	22	19	56%
	女	41	35	27	40%
	全体	94	57	46	48%

「男女共同参画社会」という言葉を知っていますか。



【Q9の分析】

「男女共同参画社会」という言葉を知っている人の割合は全体で48%となり、中間年度目標の50%をやや下回りました。一方で、20～30歳代では50～88%が「知っている」と回答しており、若年層ほどジェンダー平等や多様性に関する情報に触れる機会が多い傾向が見られます。これに対し、40～60歳代の女性では24～35%にとどまり、中高年層では認知度が低い傾向がうかがえます。

◎ KPIの進捗評価

基本目標Ⅰ...「男女共同参画社会」という言葉を知っている人の割合

	R2	R7	R12
目標値	-	50%	60%
現況値	-	48%	-
評価	-	未達成	-

【評価】

中間年度では、目標値を50%としていましたが、現況は2ポイント下回り、未達成の評価となりました。

※男女共同参画社会とは...男女が互いに人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別に関わりなく、その個性と能力を発揮できる社会。

Q10 単一回答

男女平等は憲法で保障されていますが、現在、日本の社会において男女の地位は、どの程度平等になっていると思いますか。

①家庭生活(家事・育児・介護面など)では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	26	13%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	85	43%
平等である	30	15%
女性の方が非常に優遇されている	17	9%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	29	15%
わからない	9	5%

②職場では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	16	8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	70	37%
平等である	58	31%
女性の方が非常に優遇されている	4	2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	17	9%
わからない	24	13%

③学校教育の場では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	5	3%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	23	13%
平等である	97	52%
女性の方が非常に優遇されている	4	2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	11	6%
わからない	45	24%

④地域活動の場(自治会・ボランティア活動など)では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	7	4%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	43	22%
平等である	90	47%
女性の方が非常に優遇されている	5	3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	18	9%
わからない	28	15%

⑤政治や行政の政策・方針決定の場では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	44	23%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	71	38%
平等である	33	18%
女性の方が非常に優遇されている	7	4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	2	1%
わからない	31	16%

⑥法律や制度の上では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	18	10%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	57	30%
平等である	70	37%
女性の方が非常に優遇されている	4	2%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	9	5%
わからない	31	16%

⑦社会通念や慣習・しきたりなどでは

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	29	15%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	113	59%
平等である	20	10%
女性の方が非常に優遇されている	5	3%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	11	6%
わからない	14	7%

⑧社会全体では

項目	回答	割合
男性の方が非常に優遇されている	16	8%
どちらかといえば男性の方が優遇されている	119	62%
平等である	29	15%
女性の方が非常に優遇されている	7	4%
どちらかといえば女性の方が優遇されている	4	2%
わからない	17	9%

【Q10の分析】

男女の地位は、どの程度平等になっているかについて、①家庭生活（家事・育児・介護面など）、②職場、⑤政治や行政の政策・方針決定の場、⑦社会通念や慣習・しきたりなど、⑧社会全体では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答割合が高い傾向がうかがえます。

一方、③学校教育の場、④地域活動の場（自治会・ボランティア活動など）、⑥法律や制度の上では、「平等である」の割合が高く、形式的・制度的な場面では男女平等と認識されている傾向が見られます。

III.男性・女性の活躍社会について

Q11 複数回答

女性のリーダーを増やす時に障害となるものはなんだと思いますか。

項目	回答	割合
1.育児・介護・家事などにおける夫などの家庭の支援が十分でないこと	153	26%
2.育児・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと	114	19%
3.長時間労働の改善が十分でないこと	91	15%
4.上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	65	11%
5.企業などにおいて、管理職になると広域異動が増えること	57	10%
6.現時点では、必要な知識や経験などをもつ女性が少ないこと	41	7%
7.女性自身がリーダーになることを希望しないこと	68	11%
8.その他（〇〇）	3	1%

【その他の意見】

- ▶ 立場や偏見
- ▶ 女性自身の意識を変えることも必要
- ▶ セクハラ

【Q11の分析】

女性のリーダーを増やす時に障害となるものについて、「育児・介護・家事などにおける夫などの家庭の支援が十分でないこと」（26％）が最も多く挙げられ、次いで「育児・介護の支援などの公的サービスが十分でないこと」（19％）が続きます。家庭支援および公的サービスの不足が主な障壁と認識されている傾向がうかがえます。

Q12 複数回答

あなたは男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

項目	回答	割合
1.仕事と両立させることは、現実として難しい	103	22%
2.家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	68	15%
3.男性自身も充実感が得られる	38	8%
4.子どもにいい影響を与える	91	19%
5.男性も家事・育児を行うことは、当然である	110	24%
6.家事・育児は女性の方が向いている	34	7%
7.妻が家事・育児をしていないと誤解される	20	4%
8.その他（〇〇）	6	1%

〔その他の意見〕

▶ 高齢になると男性も家事ができることが大切になるなど、切実な事が多くあります。家事ができない高齢者は大変です。▶ 価値観や考え方が異なるため、同じ質の家事・育児ができない。▶ 家事・育児をすることで、思いやりの気持ちを持てる。女性も心を広く持つ必要はある。▶ 男性が家事、育児を行う際、「手伝う」という表現を使い、あくまで女性のやることだという認識を持っている。

【Q12の分析】

男性が家事・育児を行うことのイメージとして、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」（24％）が最も多く、家庭における性別役割分担の意識が変化しつつある傾向がうかがえます。

一方で、「仕事と両立させることは、現実として難しい」（22％）も一定の割合を占めており、職場の長時間労働や柔軟な働き方の不足などが、男性の家事・育児への参加を妨げている可能性が考えられます。

Q13 複数回答

男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。

項目	回答	割合
1.主夫として、家事・育児・介護を行う	77	15%
2.育児・介護のためにいったん離職する	39	8%
3.仕事と育児・介護を両立するため、賃金が下がっても転職する	39	8%
4.育児・介護のための連続休暇、短時間勤務制度を活用する	122	24%
5.リフレッシュのための休暇を取得する	95	19%
6.育児・介護のための休暇を取得する	127	26%

【Q13の分析】

男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて、「育児・介護のための休暇を取得する」（26％）が最も受け入れられやすいと回答されており、男性自身が家庭の責任を担う意識が広まりつつある傾向がうかがえます。

また、「育児・介護のための連続休暇や短時間勤務制度を活用する」（24％）も高い割合を占めており、制度への理解や関心が高まり、実際の利用に向けた意識変化が進んでいる可能性が考えられます。

Q14-男性 複数回答

(1)男性の育児や介護と仕事の両立を進めるために特に必要だと思うことは。

項目	回答	割合
1.長時間労働を削減する	103	17%
2.育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る	114	19%
3.短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する	67	11%
4.育児・介護休業時の経済的補償を充実する	84	14%
5.保育・介護の施設やサービスを充実する	45	7%
6.職場や上司の理解・協力	100	16%
7.「男は仕事、女は家庭」という社会通念を改める	58	10%
8.家族の理解・協力	33	5%
9.育児や介護と仕事の両立を推進する必要性を感じない	0	0%
10.特になし	4	1%
11.その他（〇〇）	2	0%

〔その他の意見〕

▶ サラリーマンを念頭に置いた回答選択肢が多いと思われる。 ▶ プライドを低くすることが大事だと思う。

【Q14-男性の分析】

男性の育児や介護と仕事の両立を進めるために特に必要だと思うことは、「育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る」（19％）が最も多く挙げられ、男性が安心して制度を活用できる環境づくりへの期待や、人事評価のさらなる改善を求める前向きな意識が高まりつつある傾向がうかがえます。

次いで「長時間労働を削減する」（17％）、「職場や上司の理解・協力」（16％）が続いており、日本的な働き方文化に根差した長時間労働などが、両立を難しくしている可能性が考えられます。

Q14-女性 複数回答

(2)女性の育児や介護と仕事の両立を進めるために特に必要だと思うことは。

項目	回答	割合
1.長時間労働を削減する	57	9%
2.育児・介護休業制度を利用しても不利にならない人事評価制度を作る	77	13%
3.短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する	85	14%
4.育児・介護休業時の経済的補償を充実する	75	12%
5.保育・介護の施設やサービスを充実する	88	15%
6.職場や上司の理解・協力	96	16%
7.「男は仕事、女は家庭」という社会通念を改める	56	9%
8.家族の理解・協力	74	12%
9.育児や介護と仕事の両立を推進する必要性を感じない	0	0%
10.特になし	1	0%

【Q14-女性の分析】

女性の育児や介護と仕事の両立を進めるために特に必要だと思うことは、「職場や上司の理解・協力」(16%)、「保育・介護の施設やサービスを充実する」(15%)、「短時間勤務や在宅勤務など、柔軟な働き方を整備する」(14%)が上位を占めています。

これらの結果から、働く環境における理解と協力の醸成、安心して利用できる支援インフラの充実、そして柔軟な働き方制度の実効性向上が求められている傾向がうかがえます。

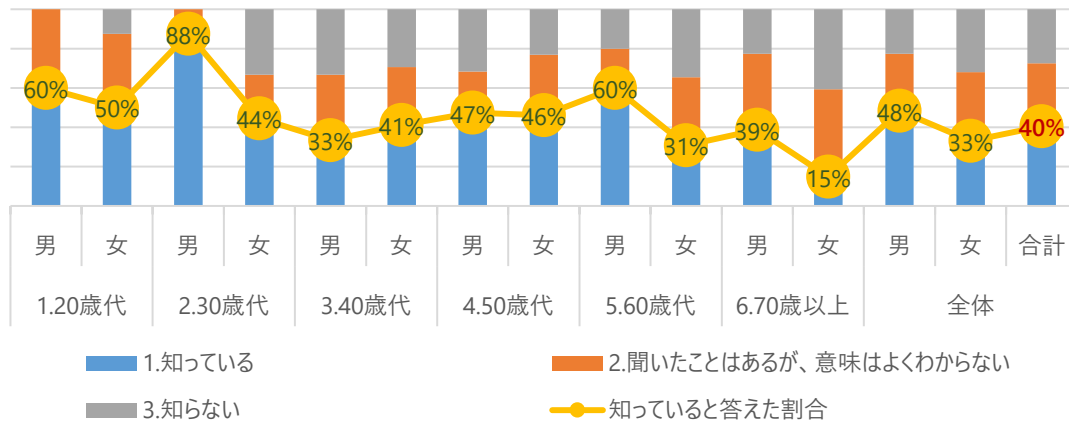
IV.結婚や職業など生活全般について

Q15 単一回答 KPI項目

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。

年代	性別	クロス集計			認知割合
		1.知っている	2.聞いたことはあるが意味はよくわからない	3.知らない	
20歳代	男	3	2	0	60%
	女	4	3	1	50%
30歳代	男	7	1	0	88%
	女	4	2	3	44%
40歳代	男	5	5	5	33%
	女	7	5	5	41%
50歳代	男	9	4	6	47%
	女	6	4	3	46%
60歳代	男	9	3	3	60%
	女	8	9	9	31%
70歳以上	男	12	12	7	39%
	女	4	12	11	15%
合計	男	45	27	21	48%
	女	33	35	32	33%
	全体	78	62	53	40%

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っていますか。



【Q15の分析】

「ワーク・ライフ・バランス」の認知は全体で40%となり、中間年度目標の30%を上回りました。一方で、若年層（20・30歳代）では50%～88%と高い認知が見られるのに対し、70歳以上の女性では15%にとどまっており、世代間で大きな格差が見られます。このことから、高齢層への啓発強化等により、全世代での理解促進を図る必要があると考えられます。

◎ KPIの進捗評価

基本目標Ⅱ...「ワーク・ライフ・バランス」という言葉を知っている人の割合

	R2	R7	R12
目標値	-	30%	40%
現況値	-	40%	-
評価	-	達成	-

【評価】

中間年度では、目標値を30%としていましたが、現況は10ポイント上回り、達成の評価となりました。

※ワーク・ライフ・バランスとは...「仕事と生活の調和」の意。「ワーク・ライフ・バランスの実現」とは、働き方の改善・見直しなどにより、一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域などにおいても子育て期、中高年期といったライフステージに応じた多様な生き方が選択・実現できることを指す。

Q16 単一回答 KPI項目

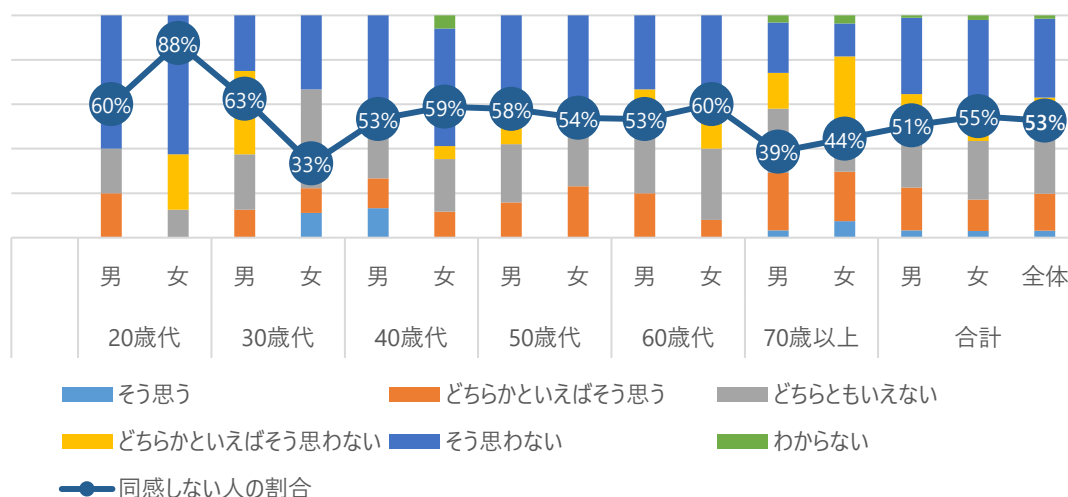
あなたは次の事柄について、どのように思いますか。

①「夫は外で働き、妻が家を守る」という考え方

クロス集計

年代	性別	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない	同感しない人の割合
20歳代	男	0	1	1	0	3	0	60%
	女	0	0	1	2	5	0	88%
30歳代	男	0	1	2	3	2	0	63%
	女	1	1	4	0	3	0	33%
40歳代	男	2	2	3	2	6	0	53%
	女	0	2	4	1	9	1	59%
50歳代	男	0	3	5	2	9	0	58%
	女	0	3	3	1	6	0	54%
60歳代	男	0	3	4	3	5	0	53%
	女	0	2	8	6	9	0	60%
70歳以上	男	1	8	9	5	7	1	39%
	女	2	6	6	8	4	1	44%
合計	男	3	18	24	15	32	1	51%
	女	3	14	26	18	36	2	55%
	全体	6	32	50	33	68	3	53%

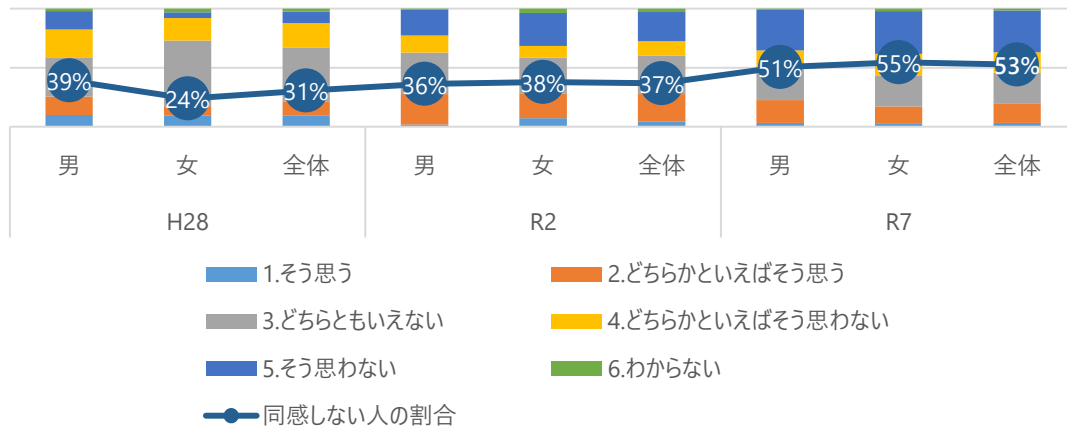
「夫は外で働き、妻が家を守る」という考え方に対して



【Q16の分析】

「夫は外で働き、妻が家を守る」という考え方に同感しない人の割合は全体で53%となり、中間年度目標の45%を上回りました。特に20代女性ではその割合（88%）が高く、世代交代に伴い、家庭における性別役割分担の意識変化が進んでいる傾向がうかがえます。

同感しない人の割合の推移を見ると...



【経年変化の分析】

「夫は外で働き、妻が家を守る」という考え方に同感しない人の全体の割合は、平成28年度の31%から令和2年度の37%、令和7年度には53%へと上昇しました。

特に令和2年度から令和7年度にかけての伸びが大きいことから、この数年間で価値観の転換が加速していることがうかがえます。

ただし、約半数が「どちらかといえばそう思う」または「どちらともいえない」と回答していることから、「固定的役割観の変化」が進む一方で、「夫が外で働き、妻が家を守る」形を望む層も一定数存在するなど、多様な価値観の併存がうかがえます。

◎ KPIの進捗評価

基本目標1 ... 固定的な性別役割分担意識について、「同感しない」人の割合

	R2	R7	R12
目標値	-	45%	60%
現況値	37%	53%	-
評価	-	達成	-

【評価】

中間年度では、目標値を45%としていましたが、現況は約8ポイント上回り、達成の評価となりました。

②結婚は個人の自由であり、結婚してもしなくてもよい

項目	回答	割合
そう思う	78	40%
どちらかといえばそう思う	40	21%
どちらともいえない	38	20%
どちらかといえばそう思わない	21	11%
そう思わない	10	5%
わからない	6	3%

③離婚を考えるほどの問題があれば離婚もやむを得ない

項目	回答	割合
そう思う	96	49%
どちらかといえばそう思う	62	32%
どちらともいえない	23	12%
どちらかといえばそう思わない	6	3%
そう思わない	3	2%
わからない	3	2%

④男性も家事・育児を行うことは、当然である

項目	回答	割合
そう思う	87	45%
どちらかといえばそう思う	63	32%
どちらともいえない	26	13%
どちらかといえばそう思わない	9	5%
そう思わない	5	3%
わからない	4	2%

⑤私はワーク・ライフ・バランスを実現できている

項目	回答	割合
そう思う	17	10%
どちらかといえばそう思う	45	26%
どちらともいえない	43	25%
どちらかといえばそう思わない	16	9%
そう思わない	23	13%
わからない	30	17%

Q17 複数回答

(現在企業や団体などで就労している方におたずねします。) あなたの職業・職場について、あてはまるものをすべて選んでください。

項目	回答	割合
1.就職活動時に男女の不平等を感じた	17	12%
2.職務内容に男女の不平等を感じる	27	20%
3.給与や昇進に男女の不平等を感じる	30	22%
4.研修機会などに男女の不平等を感じる	3	2%
5.女性の意見や価値観が尊重されない	9	6%
6.性別のために上司や取引先などから信頼されないことがある	5	4%
7.結婚したり、子どもが生まれたりすると勤めにくい	24	17%
8.セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）の被害にあったことがある	7	5%
9.身近にセクハラがあるのを知っている	12	9%
10.その他（〇〇）	4	3%

〔その他の意見〕

- ▶ 一定のカスハラは存在する。 ▶ 女性しかいないのでわからない。 ▶ 不平等と感じたことがない。
- ▶ パワハラ

【Q17の分析】

職業・職場については、「給与や昇進に男女の不平等を感じる」（22%）、「職務内容に男女の不平等を感じる」（20%）の回答割合が高い傾向が見られます。

このことから、職場における男女平等の理念が一定程度浸透しつつある一方で、待遇や職務内容の面で依然として構造的な格差が残っていると考えられます。

Q18 単一回答

(結婚されている方※におたずねします。※婚姻はしていないが異性と同居している方も含みます。) 結婚・出産後のあなたの就労・退職について満足していますか。

項目	回答	割合
1.満足	64	49%
2.退職せずに働きたかった	9	7%
3.退職せずに育児休暇をとりたかった	2	2%
4.もっと長く育児休暇をとりたかった	10	8%
5.もっと長期間働きたかった	11	8%
6.もっと家庭生活を優先しながら働きたかった	29	22%
7.退職して家庭や育児に専念したかった	1	1%
8.その他（〇〇）	4	3%

〔その他の意見〕

▶ 出産・退職後は子どもが小6になるまで育児に専念しました。その後復帰し、子育てと両立しながら仕事に取り組みました。子供が自立した今、自分の仕事に専念できて満足しています。女性の再就職を保証する支援する社会のしきみが一番大切だと思います。 ▶ その時々に合わせて仕事をしました。 ▶ 昔は女性は家で子育てに専念し、子どもが少し大きくなって空いた時間に働くのが、普通でした。 ▶ 出産して落ち着いてから、働くことができました。

【Q18の分析】

結婚・出産後の就労・退職について、「満足」（49％）の割合が全体の約半数を占めました。これは、育児休業制度や短時間勤務、再就職支援などの整備が進み、女性の就業継続が一般化してきた成果と考えられます。

一方で、「もっと家庭生活を優先しながら働きたかった」（22％）の割合も高いことから、「家庭」と「仕事」の両立における理想と現実のずれが存在する傾向が見られます。

Q19 単一回答

女性が職業（収入のある仕事）をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

項目	回答	割合
1.職業をもたないほうがよい	5	3%
2.結婚するまでは、職業をもつほうがよい	3	2%
3.子どもができるまでは、職業をもつほうがよい	12	6%
4.子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい	103	56%
5.子どもはつくらずに、そのまま職業を続けるほうがよい	1	1%
6.子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつほうがよい	36	19%
7.わからない	17	9%
8.その他（〇〇）	7	4%

〔その他の意見〕

▶ 個々の考え方による。 ▶ もちたい人がもてばよい。 ▶ あくまで個人を尊重するべき。 ▶ その人の自由だと思う。 ▶ その人の意思を尊重する。 ▶ その家庭の状況による。 ▶ 今の時代は分かりませんが、子供を育てるという事はとっても大事だと思います（昔人間なので）家に母がいないと淋しいし、学校から帰って来ても子供の様子に（何があったか）気づかない様に思います。 ▶ 結婚するまでは、職業をしたければすればよい。子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をしたければすればよい。 ▶ キャリアアップを喜びと感じ、努力できる方ならば、たとえご主人を専業主夫にしてでも頑張るべき。男女に差はありません。その人個人の適性、やる気だと思います。嫌々生活の為働くのはいかがなものか。 ▶ その人の自由。 ▶ 家庭や個人の事情によると思う。

【Q19の分析】

女性が職業（収入のある仕事）をもつことをどのように考えるかについては、「子どもができて、ずっと職業を続けるほうがよい」（56％）の割合が高く、女性の就労観が「出産＝退職」という従来の価値観から「出産後も働き続ける」方向へと変化しつつある傾向が見られます。

また、働くことを個人の生き方や自己実現の一部として捉える意識が社会全体に広がっていると見ることができます。

Q20① 単一回答

（結婚されている方におたずねします。）あなたの家庭では、次のような家事を、主にだれが分担していますか。

①掃除

項目	回答	割合
夫	24	17%
妻	91	66%
子ども	0	0%
家族全員	22	16%
その他の人	1	1%
わからない	0	0%

②食事のしたく

項目	回答	割合
夫	5	4%
妻	121	87%
子ども	1	1%
家族全員	9	6%
その他の人	2	1%
わからない	1	1%

③食事の後かたづけ、食器洗い

項目	回答	割合
夫	17	12%
妻	90	65%
子ども	6	4%
家族全員	23	17%
その他の人	1	1%
わからない	1	1%

④洗たく

項目	回答	割合
夫	13	9%
妻	107	78%
子ども	0	0%
家族全員	16	12%
その他の人	0	0%
わからない	1	1%

⑤育児（育児のある方のみお答えください）

項目	回答	割合
夫	1	1%
妻	40	59%
子ども	1	1%
家族全員	17	25%
その他の人	6	9%
わからない	3	5%

⑥介護（介護のある方のみお答えください）

項目	回答	割合
夫	24	35%
妻	11	16%
子ども	1	1%
家族全員	27	40%
その他の人	9	13%
わからない	4	7%

【Q20①の分析】

家庭における家事分担については、⑥介護を除き、①掃除、②食事のしたく、③食事の後かたづけ・食器洗い、④洗たく、⑤育児のいずれにおいても、「妻」が担っていると回答する割合が高い傾向が見られます。この結果から、家庭内の家事分担が依然として「妻中心」に偏っている現状があると考えられます。

Q20②

単一回答

あなたは家庭での現在の家事分担に満足していますか。

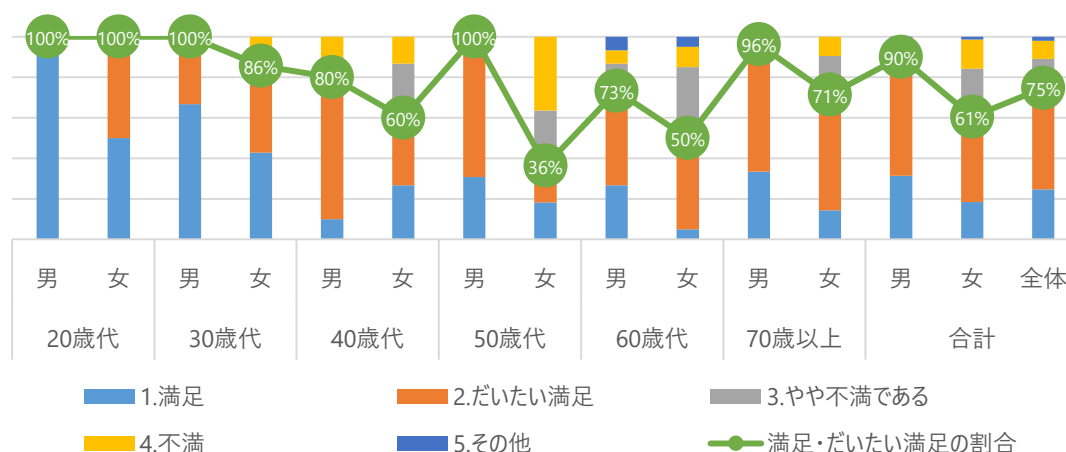
クロス集計

年代	性別	1.満足	2.だいたい満足	3.やや不満である	4.不満	5.その他	満足・だいたい満足の割合
20歳代	男	2	0	0	0	0	100%
	女	1	1	0	0	0	100%
30歳代	男	2	1	0	0	0	100%
	女	3	3	0	1	0	86%
40歳代	男	1	7	1	1	0	80%
	女	4	5	4	2	0	60%
50歳代	男	4	9	0	0	0	100%
	女	2	2	3	4	0	36%
60歳代	男	4	7	2	1	1	73%
	女	1	9	7	2	1	50%
70歳以上	男	9	17	0	0	1	96%
	女	3	12	4	2	0	71%
合計	男	22	41	3	2	2	90%
	女	14	32	18	11	1	61%
	全体	36	73	21	13	3	75%

〔その他の意見〕

- ▶ 満足していないが、他にする者がいない。
- ▶ 申し訳ないと思っている。
- ▶ 申し訳ないと感じるが、昔の人間。なにもしてこなかったので出来ない。
- ▶ 主人が働いている時は良いのですが、今は年を取り2人で分担したいと思います。

あなたは家庭での現在の家事分担に満足していますか。



【Q20②の分析】

家事分担に対する「満足・だいたい満足」の回答割合は全体で75%となりましたが、20歳代を除き、女性の満足度が男性よりも低い傾向が見られます。

この背景には、家庭内の家事分担が依然として妻中心に偏るなど、量的な不均衡が存在していることがうかがえます。

V.人権について

Q21 複数回答

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）が問題になっていますが、経験したり、見聞きしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

項目	回答	割合
1.自分自身がセクハラを受けたことがある	19	8%
2.自分自身がセクハラと思える行為を相手にしたことがある	6	3%
3.身近にセクハラを受けたことがある人を知っている	35	15%
4.テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	151	65%
5.見聞きしたことはない	22	9%
6.そういう言葉は聞いたことがない	1	0%

【Q21の分析】

セクシュアル・ハラスメント（セクハラ）を経験したり、見聞きしたことがあるかについて、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」（65%）が最も多く挙げられていることから、テレビや新聞などのメディアを通じて情報に触れている人が多く、セクハラが社会問題として広く認知されていることがうかがえます。

Q22 単一回答

あなたはセクハラが起こる主な理由は何だと思いますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

項目	回答	割合
1.加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある	65	37%
2.被害者にセクハラを受ける原因がある	3	2%
3.女性を「女の子」扱いし、一人前の社会人とみなさないから	8	4%
4.男性優位の意識があるから	66	37%
5.根強い男女の役割分担意識があるから	22	12%
6.その他（○○）	14	8%

【その他の意見】

- ▶加害者のセクハラ知識や認識、自覚が不足している。
- ▶加害者の配慮のなさ。
- ▶道徳心の欠如。
- ▶ジェネレーションギャップと職場独特の固定概念があったりで、（周囲の人も）NOを言える方が少ないのでは？
- ▶「セクハラ」に対する価値観の違い（これはセクハラになるとかならないとか。）
- ▶セクハラをしていると認識が無いから。
- ▶セクハラする男性の意識の低さが原因だと思います。etc

【Q22の分析】

セクハラが起こる主な理由について、「加害者だけでなく、セクハラを許すような社会の雰囲気の問題がある」（37%）、「男性優位の意識があるから」（37%）の回答割合が高いことから、個人の資質やモラル等だけでなく、社会的な風土や価値観がセクハラ背景にあると広く認識されていることがうかがえます。

Q23 単一回答

あなたは配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）を身近に見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるものを1つだけ選んでください。

項目	回答	割合
1.自分自身がドメスティック・バイオレンスを受けたことがある	10	5%
2.自分自身がドメスティック・バイオレンスと考える行為を相手にしたことがある	3	2%
3.身近にドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人を知っている	24	13%
4.テレビや新聞などで問題になっていることは知っている	136	72%
5.見聞きしたことはない	14	7%
6.そういう言葉は聞いたことがない	2	1%

【Q23の分析】

配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）を身近に見たり、聞いたりしたことがあるかについて、「テレビや新聞などで問題になっていることは知っている」（72%）が最も多く、次いで「身近にドメスティック・バイオレンスを受けたことがある人を知っている」（13%）の回答割合が高いことから、主にメディアを通じて広く知られている一方で、実際の身近な被害事例への接点も一定程度存在する可能性が考えられます。

Q24 複数回答

女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクハラなどから人権を守るために何が必要だと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

項目	回答	割合
1.犯罪の取り締まりを強化する	102	25%
2.法律・制度の制定や見直しをする	68	17%
3.相談機関や保護施設を整備する	71	18%
4.家庭における男女平等や性についての教育を充実させる	51	13%
5.学校における男女平等や性についての教育を充実させる	66	16%
6.テレビや出版物などのメディアにおいて、性や暴力表現にもっと配慮する	41	10%
7.その他（〇〇）	4	1%

【その他の意見】

- ▶ ネットを含むメディアにおいて人権侵害に関するニュース等を重要な事件として伝える。
- ▶ 罰則の強化、性犯罪加害者のデータを社会で共有。
- ▶ スマホやネットからの情報を整備。

【Q24の分析】

女性に対する暴力や性犯罪、売買春、セクハラなどから人権を守るために何が必要かについて、「犯罪の取り締まりを強化する」（25%）の回答割合が高く、次いで「相談機関や保護施設を整備する」（18%）、「法律・制度の制定や見直しをする」（17%）の割合が高い傾向が見られます。

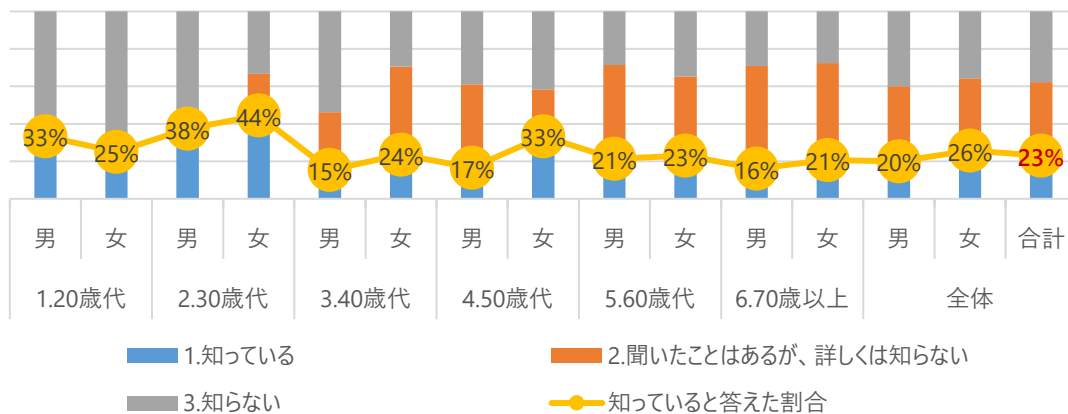
これらの結果から、女性への人権侵害対策においては、迅速な対応による抑止と、相談・支援体制や法制度の充実といった基盤制度の両面での取組が求められていると考えられます。

Q25 単一回答 KPI項目

配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談窓口（京都府家庭支援総合センターなど）があることを知っていますか。

年代	性別	1.知っている	2.聞いたことはあるが詳しくは知らない	3.知らない	認知割合
20歳代	男	2	0	4	33%
	女	2	0	6	25%
30歳代	男	3	0	5	38%
	女	4	2	3	44%
40歳代	男	2	4	7	15%
	女	4	8	5	24%
50歳代	男	3	8	7	17%
	女	4	3	5	33%
60歳代	男	3	7	4	21%
	女	6	11	9	23%
70歳以上	男	5	17	9	16%
	女	6	15	8	21%
合計	男	18	36	36	20%
	女	26	39	36	26%
	全体	44	75	72	23%

配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談窓口（京都府家庭支援総合センターなど）があることを知っていますか。



◎ KPIの進捗評価

基本目標IV...DVに関する相談窓口の認知率

	R2	R7	R12
目標値	-	30%	50%
現況値	-	23%	-
評価	-	未達成	-

【評価】

中間年度では、目標値を30%としていましたが、現況は7ポイント下回り、未達成の評価となりました。

【Q25の分析】

配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス）に関する相談窓口（京都府家庭支援総合センターなど）の認知率は全体で23%にとどまり、特に40歳代以上の男性で低い傾向が見られます。

また、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」とする回答の割合が高いことから、相談窓口に関する情報が表面的な認知にとどまっている可能性が考えられます。

VI.男女共同参画のまちづくりについて

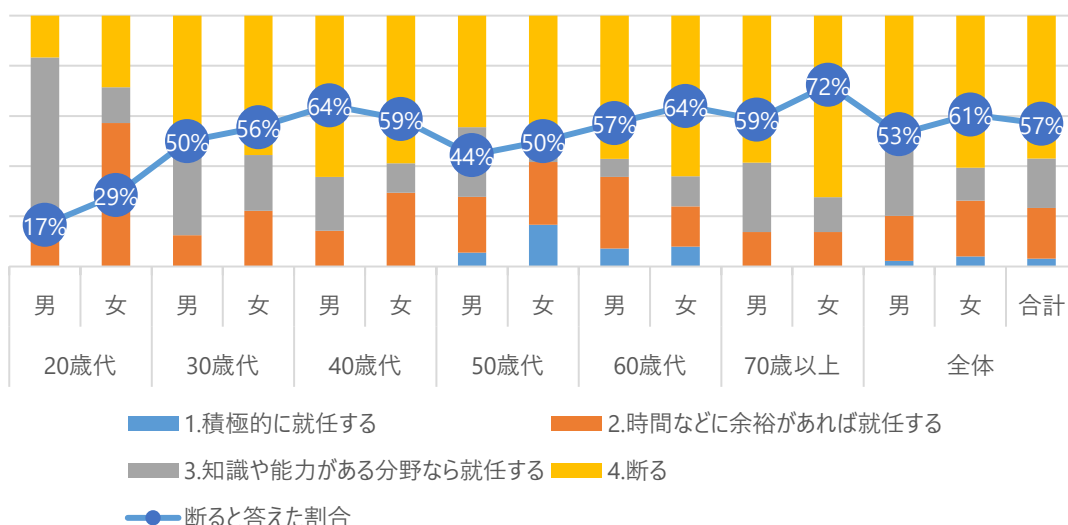
Q26 単一回答

府や町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。

クロス集計

年代	性別	1.積極的に就任する	2.時間などに余裕があれば就任する	3.知識や能力がある分野なら就任する	4.断る
20歳代	男	0	1	4	1
	女	0	4	1	2
30歳代	男	0	1	3	4
	女	0	2	2	5
40歳代	男	0	2	3	9
	女	0	5	2	10
50歳代	男	1	4	5	8
	女	2	3	1	6
60歳代	男	1	4	1	8
	女	2	4	3	16
70歳以上	男	0	4	8	17
	女	0	4	4	21
合計	男	2	16	24	47
	女	4	22	13	60
	全体	6	38	37	107

府や町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼されたらどうしますか。



【Q26の分析】

府や町から審議会などの委員に就任してほしいと依頼された場合、全体で「断る」（57％）と回答した割合が高いことから、審議会などへの就任依頼に対して負担感を持つ人が多い可能性が考えられます。

また、30歳代から40歳代にかけて「断る」と回答した割合が上昇する傾向が見られ、70歳以上の女性においては72％と最も高くなっており、現役世代における多忙さや、高齢層における健康面での不安等が背景にあることがうかがえます。

一方で、「時間などに余裕があれば就任する」、「知識や能力がある分野なら就任する」と回答した割合は合わせて約4割を占めていることから、会議開催時間の工夫や心理的ハードルの軽減など、各世代のライフスタイルに応じた参画しやすい環境づくりを進めることが、今後の課題であると考えられます。

Q27 単一回答

宇治田原町のまちづくりや行政には、女性の意見が反映されていると思いますか。

項目	回答	割合
1.十分反映されている	13	12%
2.まあまあ反映されている	36	35%
3.あまり反映されていない	44	42%
4.全く反映されていない	11	11%

【Q27の分析】

宇治田原町のまちづくりや行政に女性の意見が反映されていると思うかについて、「あまり反映されていない」（42％）、「全く反映されていない」（11％）と回答した人の割合が、「十分反映されている」（12％）、「まあまあ反映されている」（35％）を上回りました。

このことから、女性がまちづくりや行政に参画する機会をさらに広げていくことが今後の課題として示されています。

Q28 複数回答

男女共同参画社会をつくるために、行政はどのようなことをしたらよいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

項目	回答	割合
1.住民に男女共同参画についての啓発活動を進める	46	8%
2.学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	96	18%
3.男女共同参画の視点に立った地域防災の取り組みを推進する	16	3%
4.女性の就労機会を増やしたり、女性のための多様な職業教育・訓練を充実させる	32	6%
5.育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる	119	22%
6.保育施設や学童保育などを充実させる	75	14%
7.高齢者や病人の介護施設などを充実させる	96	18%
8.男性の人数と同数にするなど、より多くの女性を行政施策の審議等に登用する	27	5%
9.自己実現や生きがい、余暇等、女性の生き方に関する情報や相談、教育を充実させる	24	4%
10.各国の男女共同参画の情報提供や広い視野に立った国際交流を推進する	9	2%
11.何もする必要はない	1	0%
12.その他（〇〇）	1	0%

〔その他の意見〕

- ▶ 庁舎敷地を使って、老若男女が気軽に参加できるイベントを小規模でいいので始めてほしい。

【Q28の分析】

男女共同参画社会をつくるために、行政はどのようなことをしたらよいかについて、「育児休業・介護休暇などの制度を男女ともにもっと利用できるよう普及させる」（22%）の回答割合が最も高く、次いで「学校教育や社会教育等の場で、男女平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」（18%）、「高齢者や病人の介護施設などを充実させる」（18%）の割合が高い傾向が見られます。

これらのことから、男女共同参画社会の実現に向けて、制度利用の促進や教育・福祉環境の充実など、男女がともに活躍しやすい環境づくりを行政に期待する声が多いことがうかがえます。

Q29 自由記述

最後に、宇治田原町の男女共同参画のためのまちづくりについてご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

〔男女共同参画に関連した意見の一部を抜粋 ①〕

[70代女性]▶ 誰でもが、社会参加することで、この社会は皆で協働している喜びを実感できます。人間は教育がとても大切で、学びたい人が、学べる環境づくりをしていって、自然と社会がよくなっていくのだと思います。私は自分の歩んできた道を振り返って、つくづくそう思います。今はふるさと宇治田原に恩返し気持でボランティアに参加しています。こんな気持ちになれるには、多くの人々の導きがありました。感謝しています。

[40代男性]▶ 当町では年齢の高い人達は（特に男性）女性の地位を低く見ているような気がするし、地域の役に女性は殆どいない。行政の審議会委員でも圧倒的に男性ばかり！まず、行政のその辺りから改善すべきでは。

[60代男性]▶ 男女共同参画の実現は、日本社会全体の意識改革が必要と思われます。町単位での活動もすべきだと思いますが、啓発的なことは国の主動でやっていくべきで、実現のために必要な施設の設置や充実も町でも積極的に行っていけるとは思います。財政面のこともあり、国が補助金を出すなどの制度の確立も必要なのではないかと思えます。私は一地方公務員として働いてますが、公務員の中では意識改革も制度の拡充も進んできてます。それを中小企業にまで押し広げるには、日本全体に意識改革が浸透しないとイケないのだと思います。

[60代女性]▶ 人口減少や高齢化、外国人の増加、目の前にきている問題ですが、長期的にどのように考え、これから女性活躍でそれらの問題も少しは良い方向に変えられると思うので、町政として考えていってほしい。

[70代女性]▶ 高齢になるほど、男女問わず自立が求められる時代になってきたと思う。家庭においても家事、育児、介護など男女の別がなくやらざるを得ない状況の中で、子供の頃からの教育が大切だと思います。宇治田原に住んで、交通手段が一番の問題となってきました。町内の移動も含め、町外の医療機関に行く時の不便さが切実。バスの減便、タクシーの少なさ、料金の高騰で利用しにくく、外出の機会が少なくなってきました。色々考えて頂いているようですが、うまく利用できるようにしたいです。

[60代女性]▶ 矛盾してるやん？と思うのは少子化で「子供を産め」と言いながら、女性にしかできない出産を、女性の社会進出が妨げていることになっていないか？ということ。出産・子育ては給料は出なくても、女性の大きな大事な仕事だと思う。社会に出て仕事をし、出産・育児を両立している立派な女性もいるけど、そうでない人もいて、世間が男女共同参画を声高に叫ぶことで、両立できない人が劣等感や社会からの疎外感を感じる心配がないだろうか？男性と女性には、（あるいは個人間にも）得意な能力の違いがあるのはあたりまえ。それぞれの能力を生かす役割を担っていれば、わざわざ男女共同を叫ばなくてもよいと思う。社会に出て何か仕事をしている人を「働いている」と言い、専業主婦を「働いていない」というくり方をするのは、それこそ差別していることになりはしないかと思う。大昔からもうすでに男女共同参画社会はできあがっている。女性の能力を発揮できる出産・育児・家事などの仕事を社会を支える大事な仕事と認めていない社会（世間）に問題あるのではないのでしょうか。

[60代女性]▶ まずは個人の意見を出しやすい町にしたい。他人に優しい町でいたい。相手を攻撃する所を見るのも聞くのも辛い。残念ながら閉鎖的な風土はまだ残ってて、意見しにくい。男女の前に個人の尊重が大事だと思う。答えになってなくてすいません。

〔男女共同参画に関連した意見の一部を抜粋②〕

[50代男性]▶ 男女共同参画、男女平等といった考え方は、私も子供の頃から学校のような教育の場においても学んできましたし、現在、行政や学校、世間においても（企業においても少しずつ）浸透してきていると思います。昔に比べたらよい時代になったのかなあという印象があります。地域行事においても男女の関係なく社会活動に参画しているイメージはあるのですが、結局親世代（私より的一世代以上上の世代）の考え方が改まっていないように感じます。親や（もうなくなりましたが）祖父母の時代は、男女の家庭における家事の役割分担や考え方そのものが、今思えば大変古いものだったと感じていましたので、その固定概念が、親世代や場合によっては、私自身にも根強く残っていると思います。共同参画を啓発する情報発信や家庭レベルのできること、心構え、良い事例などを継続して発信される体制づくりを望みます。

[50代男性]▶ 宇治田原町のは、他の地域の人意見の聞かない人が多い。年寄りが幅を利かせる。そんな地域で男女共同参画だなんだと理想を掲げても続かない。現に若い世帯は逃げていく状況ではないですか。働く世代、税金を納める人達が生きやすい地域になれば、必然的に男女共同参画になっていると思う。

[70代男性]▶ ①府・町議会を男女同数にする法律を制定し、女性の意見が反映しやすい議会にすることが必要だと思います。（国レベルの話ですが。）②役場の管理職も男女同数となるよう努力してほしいと思います。副町長、教育長等三役も男性1女性1を目指して下さい。③町に伝承されている風習の中には女性に負担がかかるものがまだまだ多いと思います。男女共同参画社会の実現のため、町の担当部局が区長会等へ働きかけ、少しでも改善を図ることが重要です。

[70代男性]▶ 表面的な事象を追うより、根本的な部分に働きかける取組が必要では。

[60代女性]▶ 男女共同参画のためのまちづくりの方向性は、活気ある住みやすい町づくりのため大切なことだと思います。生活の主体はそれぞれ個人にあるものですが、家庭単位で考えると生活に関することは、家事育児、社会参加、尚かつ、仕事を持つ女性が現在では子育て世帯では殆どだと思います。女性であるがゆえに結婚をスタートに出産、育児、教育、食生活の充実、豊かな文化環境、住環境を整えること全てが女性の役割となって、日々子育て中のお母さん達は大変な中一生懸命頑張っておられることの現実、女性の立場をよく知り、支援制度を社会全体で真剣に課題を明確に男性も家庭でできる協力を積極的に当たり前にいき、共に充実したライフワーク、生きがいを共に感じられる日々にと、女性の意見を大切に吸い上げた行政を願います。

[60代女性]▶ 男だから女だからではなく、それぞれの能力を生かした仕事や生活が出来たらいいのでは？凝り固まった考えではなく、自分が生きやすい生活は何か？や育児、介護は一生続く事はないので、そのつどに見合った生活プランを考えたらどうですか。ただ仕事しないと今の世の中なんでもお金がかかりすぎ、食べていくため仕事が必要なので、生活プランナーなど今はどれくらい稼いで手が離れたら自分の将来の貯金をするために稼ぐとか、勉強できたら生活も楽しく過ごせるのでは？人に頼らず自分の車は自分で生活を稼ぐ力を小学生の時から学ばないと大人になって苦労するのでは？何もかも値上がり、安く過ごせるにはどうしたらいいのか？勉強したいです。

[30代男性]▶ 少なくとも現状を見る限り女性に対して～等のような行動は少ない気がします。また、女性だからではなく女性も、という意識改革が必要だと思います。過去を見る限り、男性中心だった世の中です。それを変えようと思うのであれば性別を越えた行動が必要と感じます。その点については宇治田原にそのような雰囲気があるように感じません。是非共、だれもが楽しい、住んでよかったと思う町づくりをお願いします。

〔男女共同参画に関連した意見の一部を抜粋 ③〕

[60代男性]▶ 少子高齢化が進む中、出産による退職を減らすためにも、女性が職場復帰できる環境を整えることが重要だと考える。（経済的、施設などの整備充実等）労働力不足においても大きな価値があると思われる。

[40代男性]▶ 男女平等ばかり言ってきたせいで、今の世の中どう考えても女性優位になっていると思いませんか？仕事においても女性より男性に仕事押し付けてませんか？セクハラ、パワハラについても、男性ばかりがするわけではありません。男女共同参画、決して悪いことではありません。男女を差別することはダメですが、区別は当然必要です。無理やり委員に女性の登用をしたりだとか、リーダーにしたりだとか、そういうやり方こそがおかしくて、それに適した人がやればいいだけのこと。今の世の中をみても無理に男女共同参画を進める必要はないと感じます。

[50代男性]▶ 「まちづくり」という観点で、男女共同参画を宇治田原町が目指しているとのイメージが全くありませんでした。

[70代男性]▶ 町の中核である茶産業が、そもそも男性中心になっている現状のように感じます。もっと女性が活躍できる機会や雇用の場を設定できればと思います。例えば道の駅を新設するとか！先進的な自治体に学ぶ必要があるのでは？新町長の腕の見せどころですね。

[40代女性]▶ 若い世代の人達には浸透しているかと思われます。それが当たり前の世の中になって欲しいと思いますが、性別によって得意不得意があるのも事実。

[50代女性]▶ 女性町会議員が1人で、どうやって女性の意見を町政に反映できるのか？仕事しながら、育児や介護のほとんどは、女性が担っている。男性が積極的に育児と介護に参画するべき。企業の管理職は、ほとんど男性なので、管理職から親の介護など、積極的に取組むべき。

[50代女性]▶ 少しずつ変化していると思うものの、大人の考えの変化が、子供への心の変化を遅らせていると思える。

[50代女性]▶ 子供の時からの知識はとても重要だと思います。男性だから女性だからではなく、人としてどうあるべきかは若い頃より学んだ方が良いのではと思います。

[60代男性]▶ 男性も女性も幼児も高齢者もみんなが大切にされ、ゆとりのあるくらしができるようになることを望む。子育てがしやすい町、住民が近くの人のことを分かり合っているコミュニティ、力を貸し合える近所づくりあい、そういった良さが失われつつある状況を巻きもどす対策を期待する。具体的には、小中学校はそれぞれの場所で小さく、目が行き届く形態であることが大切なので、小中一貫校（統合）にしてはならないと考えている。保育や教育、子育て支援、高校生の通学支援にかかわる人員、予算を増やし、宇治田原で子育てをしたいと考える人をふやす。そのことが男女共同参画の土台となると考えている。

[60代女性]▶ 若い人たちや他地域から移住してくる人たちが、楽しく安心して住み続けられる町づくりの推進に期待します。老若男女がつながり合う温かい町づくりをお願いします。

<p>5 ジェンダー平等を 実現しよう</p> 	<p>令和8年（2026年）3月発行</p> <p>宇治田原町 企画財政課</p> <p>kikakuseisaku@town.ujitawara.lg.jp</p>
---	---



宇治田原町はSDGsの理念反映に努めます。